

平成 30 年度大牟田市総合教育会議（第 1 回） 会議録

- ・日 時 平成 30 年 10 月 9 日（火） 16 時 00 分～17 時 05 分
- ・場 所 大牟田市役所 3 階 302 号会議室
- ・出席者 中尾市長、安田教育長、山本委員、嶋田委員、東委員、笹井委員
教育施策関係部署（企画総務部）井田部長、吉田調整監
（市民協働部）中村部長、中島調整監、生涯学習課 大倉野課長
（教育委員会事務局）大迫事務局長、井上事務局次長
教育みらい創造室 松葉主査、高倉指導主事
学校再編推進室 山口室長、学校教育課 平河課長
指導室 荒木室長、学務課 鷹尾課長、黒田給食担当課長
人権・同和教育課 平田課長
事務局 企画総務部総合政策課 藤丸課長、大峰主査、三原主査、入江

◆ 議 事

〔議題〕

1. 大牟田市の特色ある教育について

教育委員会事務局より、本市の取組み状況、その成果と効果について報告。

委員 大牟田市は ESD や SDGs について、小中学校には力を入れているが、市民のまちづくりにどのようにからめていくかが課題と考える。大牟田市全体で、まちをあげて取り組んでいければ理想的だと思う。

市長 行政側も各部局が ESD や SDGs の視点に関係するというものがある。そのため、推進本部を立ち上げ、本部長に就任し、副本部長として教育長が就任したが、市民のみなさまどころか、職員全体にまだ浸透しきれていないのではないかと考える。地域講座などを行っているが、それとは別に、職員を対象とした研修を行い、全体の底上げを行っているところである。市民のみなさまとからめていければと思うが難しいところもあるため、市民だけでなく職員に対しても講座等を行っているところである。

委員 是非そうしていただきたい。

関係部署 職員研修は、管理監督職 280 人を対象に実施し、8 割を超える参加があり、徐々に浸透していると考えている。

委員 本日の本会議に出席の方も参加された方が多いということだろうか。

関係部署 そのとおりである。

- 市長 教育委員はESDなどに触れていただいているので、理解いただいていると思うが、市民の方からすると、ESD、SDGsやユネスコスクールが何をさしているのかという説明のところから始める必要がある。そのため、その意味までは辿りついていないところがある。いったい何を考えているのと思われることもあるため、そこが悩ましい点だと思う。しかし、着実に市民の行動に伴って地域で展開されている事例に結びついている。理論的な流れはおいとしても、どんなことが取り組まれているかは広まってきている。行動の中から理解していくということが出来てきていると私自身は感じている。
- 委員 広報おおむたに掲載されていることがあった。大牟田の経済界から「ESD 良いね」という評価を受けている。それを受けて心強く感じた。方向性は間違っていないと考える。
- 委員 大牟田市新水道ビジョン作成時にも、SDGsの理念を記載いただいている。とても嬉しく感じた。ビジョンになって外にでていくことが嬉しく感じた。市全体として取り組んでいることはよいことである。とても嬉しく感じた。
- 市長 水資源は、持続可能な形を運用することが重要であり、有限資源の一つである。この視点を踏まえていくことは大切であると感じる。
- 委員 地域医療構想の中でも関係ある。病院でもSDGsの構想が基本となっている。目には見えないが地域づくりに浸透してきていると感じる。病院や介護での組織作りに役立っているのではないかと感じている。
- 委員 学校訪問をして感じたのだが、様々な生徒がいる中、自尊心が高まることで前向きになっていけているのではないかと考える。持続可能な自分自身ができるのではないかと感じる。そういう子ども達にするためには、先生方が自分自身の学校で行っていることなどに対して自身を持たなければならない。そういったプロ意識が高まることが大事である。ESDの取り組みが始まってから、先生方がよりワクワクされている姿をよくみる。先生方の気持ちが生徒のみなさんに伝わっていると感じている。先生方の連携や小中連携が、生徒たちに伝わっており、来年からもっとワクワクが広がると思う。今後の楽しみ。誰も置き去りにせず、先生方が生徒ひとり一人をしっかりみて、子どもを近くそして隅々まで気持ちを伝えているのが、今の太宰田の小中学校だと思う。太宰田は南筑後で教育委員さんの話を聴いても、太宰田が一番良い教育を行っていると感じ

ている。

市長

ありがたいお褒めの言葉をいただいた。ぜひこのメッセージを各学校に届け、先生方の更なるモチベーションのアップにつながればと思う。

委員

子ども達が元気いっぱいになっているのは、先生方がワクワクされて元気いっぱいに指導されているからだと感じている。読書ボランティアを12年している。読書ボランティアも定着してきており、行事に組み込むなど、以前は身構えていた子ども達が今では楽しみにしてくれている。地域と学校の連携ができるようになったと感じている。

(16:33)

[自由討議]

生涯学習課より、文化芸術を通したコミュニケーション能力アップ事業について紹介。

その後、市長、教育長、教育委員による自由討議。

委員

平田オリザさんに講義してもらえることは非常に良いことである。この取組みは、小学生を対象には行っていないのか。

関係部署

来週は、羽山台小学校で小学校6年生を対象に行う予定。7月31日の演劇ワークショップについては、幅広く募集をした結果、学生の参加も見られた。

委員

今度の羽山台小学校のワークショップは、外部の読書ボランティアにも声をかけており、みんなで参加させてもらう。本当に良い企画であり、楽しみにしている。

委員

コミュニケーション能力は生きていく中で非常に重要である。ESDの取り組みのなかで、ユネスコスクール子どもサミットがあり、学習発表会があった。その中で、「学んだこと」を「伝えたい」という生徒がいて、そして、またそれに「答えたい」という生徒もでてきている。ESDの学びとコミュニケーションはつながるものがある。これからもこの部分は大事になってくるので、予算があるなら、羽山台小学校に留まらず、幅広くぜひ続けてもらいたい。

関係部署

今年度、羽山台小学校はモデル校であり、結果を見ながら今後も検討し

ていく。

委員 ESDの学びはひとつの手段である。今年の結果を受けて、今後につなげていっていただきたい。もっと広げていく必要があるので続けていただければ。

市長 今後、この分野が重視されていくのは明らかである。どこの小学校においても、能力アップをしていかなければならない。平田オリザさんの手法を学びとって、学んだ内容をブラッシュアップさせながら広げていく必要がある。市をあげてどこの学校でも行えればと考えているが予算の関係等もある。一回だけで終わるのではなく、いろんな形を考えていく必要があると考える。

委員 この機会について先生方も喜ばれているのではないかと思う。この機会に限らず色々な手法で先生方が学んで、子ども達に伝えることが楽しみである。

委員 明治小学校の「NAO-kun」の話になる。

委員 「NAO-kun」はアイコンタクトをきちんととる。

委員 大牟田では英語教育が進んでいると感じている。仕事をしている中で英語が必要なときがある。大牟田の小中学生は、英語になれていて良いことだなと感じている。英語になれることは良いことである。日本は今後、少子化により海外に出ていく機会が増え、ますます英語が必要になる。そのなかで、早くから英語に触れることはすごく良いことである。以前、明治小学校に全国から視察に来た。島根県からもバスで明治小学校に視察に来ていたことがあった。その当時から大牟田の英語教育への力の入れ方はすごいなと感じていた。

市長 読む、聞く、話す、書くのすべてが必要であるが、特に聞くと話すは、その環境下にあったか、慣れていたかで英語教育に対するハードルが下がるのではないかと思う。自分で思ったことを伝えようということに繋がる。片言でもボディランゲージを含めてやっているうちに、相手に伝わったことが分かると、ひとつの達成感につながると思う。達成感がプラスに変わっていくと思う。

委員 英語の授業中はとても楽しそうな雰囲気であった。

- 委員 授業中の子ども達の目がきらきらしている。
- 委員 「NAO-kun」をここにつれてきたいと思い聞いたら、動かす人がいると聞いた。
- 関係部署 明治小学校の慣れた教諭でないと動かすことができない。
- 委員 授業中なので一緒に来ることができないとことだった。いつか会っていただきたいと思う。日本語も話す。
- 委員 外国語の授業を拝見すると子どもと担任の先生の距離が近いと感じる。大牟田は学級の担任の先生がメインで教えているからこそ、子ども達のが分かっているのも、子ども達への細やかな指導がなされている。ALTがあくまでもサブであるものとなっている。それが大牟田の教育の特色だと感じる。以前きいた話では、子ども達がALTを遠巻きにしていたと聞いた。しかし今では、子ども達が駆け寄って行っている状況である。子ども達の成長の姿だなと感じる。
- 委員 私は今、子ども達が安全に通学でき、安全に学校生活が送れるように、私にできることがないかを考え、指導・助言している。交通安全であれば、子ども達が安全に通学できるように、帰り道に10秒～15秒おきに常にリピートしながら帰るように指導している。通学のときに、空き家や狭いところ、ガードレールがないところなどの危険個所についての配慮などをお願いしている。おもしろい取り組みだと感じたものが1つある。学校訪問の際には養護の先生から話を聞くようにしており、そのときに聞いた内容である。子どもたちが健康的に学校で問題が起きたり、担任の先生が子どもの様子がおかしいと言われたりしたときに、連絡ノート（健康手帳）を作り、そこで学校の様子を書いて、子どもに持たせる。それを子どもが保護者に渡し、それを保護者が読んで家での様子をコメントして、印鑑を押して子どもに渡し学校に提出する、という取り組みをされている。これはいい取り組みであると考えている。教育は教育現場だけでなく、いかに家庭とのコミュニケーションをとっていかかが大切である。なかなかそれが難しいことである。子どもの健康を通してコミュニケーションを少しずつ取っていく。そうやって地道にしていくことで、家庭との信頼関係や連携キャッチボールをすることで、いじめの早期発見などにつながると考える。これから広まらないかなと思っている。取り組みをお願いしたいと思っている。介護施設も同じである。介護施設でもデーサービス・通所介護などであれば、施設でどういう状態だったか、どういう健康状態だったかが非常にわかる。それで、職員と利用者さん

のコミュニケーションがとれる。そういったことに繋がると感じたところである。市長であればどのようなことを話されるのかなと、以前からアドバイスいただきたいと思っていた。

市長 委員の言われた1つに通学路や学校での安全問題などに気づいているとお話いただいた。学校で先生方がご指導いただく部分もあれば、私達が環境面で学校内や通学路での危険な点、防犯上問題になりそうな部分は私達が受け止める必要がある。決まったものを議論しなくてもよいのではないか。健康手帳は、家庭とコミュニケーションを取っていく上で大事だと思う。いきなり本質に入っていくことはハードルが高いと感じるが、生徒の健康を通して常日頃からコミュニケーションを図っていくことで、何か指導すべき事柄が生じたときに、正確に受け止めていただけるという下地ができるのではないかと思う。すごく大事だなと感じた。「健康手帳」がなにか他のことでも役立てられたらなと感じた。

委員 市長には本年度も出前授業にでていただいて感謝している。子ども達にとって直接市長と会える機会であり、直接お話がいただけることは素敵なことである。お忙しい中であるが、ぜひ来年度も願います。

市長 反省点すべき点は、たくさん教えたことがあるためいろいろな話をすることで、話が長くなり質疑の時間が少なくなることである。

教育長 明日、宮城県からESDの視察が来る。先月は和歌山県から視察があった。11月6日から1週間、中国から来る教員がESDについて視察される。来週は市議員が2箇所から視察に来る。大牟田には全国からESDや英語教育について視察に来る。先生達が自身を持ったり、生徒も褒められて嬉しかったりする。非常に大きな効果がある。今後も大牟田のアイデアを全国に発信したいと思う。

市長 私の公約の3本の柱の一つが教育であり、今後の大牟田を担う人材を確実に育成していることを内外に発信していければと思う。今後ともよろしく願います。

以上 (17:05) 終了